

山形県連小会報

第147号

発行日 平成29年3月13日

発行者 山形県連合小学校長会

田中利幸

山形市木の実町12-37

県教育会館(大手門パルス)

県連小 第3回理事会・第4回理事会報告

県連小の結束力を高め 更なる発展と充実を

第3回理事会(H28.11.18金)、第4回理事会(H29.2.24金)が開催されました。その概略について報告します。

田中利幸会長 挨拶

1 全連小の動きと国の教育施策について

10月27日・28日の全連小研究協議会高知大会は、全体会場のトイレ不足や初日に電車の増発が無く移動が困難だったことなど課題もありましたが、会員数も減り予算的にも厳しい中、高知県の校長先生方が一丸となって運営に努めていました。

2月16日・17日の全連小第225回理事会では、全連小の組織・運営の改革への取組や次年度の佐賀大会についての説明がありました。また、「中教審答申と学習指導要領改訂について」と題して文科省より行政説明がありました。詳細は黒木佳昭副会長より報告いただきます。

2 東北連小の動きと対応について

8月29日に福島県校長会が主催して20名程度の参加者を募り、福島第一原発と富岡第一・第二小中学校(三春校)の見学会が実施されましたが、実際に行ってみて復興にはまだまだ時間がかかるということを実感しました。

全連小秋田大会への協力金について10月17日に盛岡市で臨時会長会を実施しました。業者と交渉の結果4千万円以下の予算に抑えたこと、秋田県会員は(1,500円+5千円)×2年間を拠出すること、その上で会員数の減少から他県会員からも1,500円×2年間の協力をお願いしたいとの申し出を受け各県の理解を得ました。

これを本県第3回理事会で報告し大筋で理解を得たことを2月3日の東北連小第3回理事会で報告し、協議の結果正式に決定しました。

また、8年に1回東北ブロックで全国大会を担



うことに備える東北大会運営準備金(仮称)については、「薄く長く全員で」という基本理念の理解は得ましたが、さらにスリム化を目指すなど詳細について継続審議していきます。

3 県連小活動を振り返って

昨年度まで8月の理事会から2月の理事会までの期間が空きすぎており、協議する内容が出ても決定することができないことから、一昨年度は県連小の組織改編を、昨年度は会議の持ち方など運用面の見直しを行い、今年度からこれまでの地区会長会を第3回理事会とし、2月の理事会が第4回となり半日開催としました。しかし、参加人数を絞った分、心的な距離が縮まったせい、毎回膝を付き合わせての熱い議論が展開されてきました。

①専門委員会の活動について

一年間の活動を振り返ると、小中合同で活動している対策委員会では、県校長会の会員減少に伴う予算上の問題から、今年度より会議のスリム化を図り開催場所や参加メンバーなどを見直しましたが、例年と変わりなく各地区からの要望の取りまとめや「お願い」の作成、行政の方々との連携が図られました。また、研修委員会が中核となり、西置賜地区が担当して開催された第70回県連小研究協議会の開催。生徒指導委員会による、アンケートでの県内生徒指導の現状把握と、その結果をもとにした分析と考察の発信。こうした取組や、各

地区校長の実践、県連小5年の歩み、遠藤光男県連小幹事が全連小への報告としてまとめた「復興の担い手を育む教育活動から」の掲載を主な内容とした研修委員会による研究紀要の発刊。

このように組織のスリム化が図られた上に、3つの専門委員会を中心に実に充実した活動を行っていただいたことに感謝申し上げます。

②東北連小研究協議会山形大会に向けて

さて、東北連小山形大会への準備も黒木佳昭実行委員長、最上博之事務局長を中心に順調に進んでいます。9月20日に拡大事務局会を開催し、主管する山形・上山・東村山地区の会員が一堂に会し現場を見ながら相談しました。

そして、2月3日の東北連小第3回理事会では、具体的な申し込み方法や大会宣言(案)の提案なども行い承認されました。また、2月21日の第7回正副部長会では、各専門部の進捗状況の確認と案内状や参加申込書などの袋詰め・発送作業を行い各県事務局に届けました。

以上のような今年度の動きに続いて、次年度は県連小を取り巻く県内外の教育界全体に大きな動きや変化が訪れます。しかし、こうしたときこそ互いに胸襟を開いて語り合い、県連小の結束力を高めると共に更なる発展と充実に努めましょう。

報 告

1 全連小理事会関係

- 佐賀大会発表に関わって、本県は第2分科会「組織・運営」(北村山)と第7分科会「研究・研修」(西村山)になる。
- 新学習指導要領について「英語」が入ってくるが、モジュールで実施できるのは2時間以上の教科のみ。よって中学年の英語活動についてはモジュールで行うことができない。目標達成のためには1単位時間が必要。
- 海外教育視察を隔年実施とし、補助金を1/2にしたい。

2 東北連小理事会関係

- 平成31年度全連小研究協議会秋田大会協力金について、平成29年と30年の2年間1500円を集めることが決定した。また、設置が増えてきた小中一貫校や義務教育学校の会費や助成金を改めて検討する必要がある。
- 東北連合小学校長会「会長会」の位置づけについて、運営等必要事項を協議する会とし、会長

会で決定した内容は、その後に開催される理事会で最大限尊重されるものとする。(あくまでも決定機関は理事会)したがって、「会長会」は、会則上の機関として位置づけない。

- 来年度の東北連小山形大会については、原案通り認められた。

3 県連小各専門委員会関係

①対策委員会

- 対策委員会活動に関するアンケート調査の結果として、経営懇談会、経営学習会は県教委の話を直接伺ったり小中学校長会の考えを理解してもらう貴重な会であり、今後も継続していく。
- 各地区の対策活動として、市町村教委との話し合い等で「お願い」の内容が活かされている。また、対策委員会の情報交換が会員の意識向上に役立っている。

②生徒指導委員会

- 関係機関(児童相談所)との情報交換は、児童虐待の現状や動向など有意義であった。
- 各地区の生徒指導上の課題・取組についての情報交換も活発に行われた。
- 来年度も4回開催としたい。

平成29年度 山形県連合小学校長会活動方針

① 県連小の歩み

山形県連合小学校長会は、昭和22年に結成されて以来、本県小学校教育の充実発展のため、真摯に研究と実践を重ねるとともに教育条件の整備に努め、多くの成果を収めてきた。

② 変化する社会情勢と学校の課題

現在、少子高齢化、ICTの進歩と社会や経済のグローバル化、知識基盤社会への一層の進展、地域コミュニティ機能の弱体化など、子どもを取り巻く社会情勢はめまぐるしく変化している。学校では、大量退職に伴う教職員の世代交代、いじめや不登校問題、情報モラルの欠如や生活習慣の乱れ、規範意識の低下など課題が山積している。

③ 必要とされる人間像

このような時代だからこそ、自分の意志をしっかりともち、多様な価値観をもつ人々と共に考えながら、問題解決に主体的に参画しようとする意識や態度の醸成が望まれる。豊かな創造性としなやかな知性など、新たな知を拓き、たくましい行動力をもつ日本人の育成を目指していかなければならない。

第6次山形県教育振興計画の基本目標「人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり」の推進は、山形県の学校教育が取り組むべき最重要課題である。

一つ一つの困難を乗り越え、地域社会の発展に貢献するとともに、持続可能な社会を実現するために、新たな発想や価値を創造し社会の各分野を牽引していく人材の育成が求められている。

④ 県内小学校と校長の役割＝「夢と希望をもち 共に未来を拓くいのち輝く子どもを育てる学校経営」

私たちはこうした現状を受け止め、子どもたちが未来への夢と希望をもち、その実現に向かって人とつながりながら社会を生き抜く力を育てていかなければならない。

校長は、自らの責任と使命を自覚し、時代の潮流を捉える先見性と不易流行を見極める見識をもって経営ビジョンを描くこと。創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善、時代を担う教職員の資質・能力の向上、学校組織の活性化、施設設備の改善など、学校経営の充実にリーダースhipを発揮することが求められる。

⑤ 県連小の役割

そこで、山形県連合小学校長会は、学校数が減少する中、連合体としての組織力を一層高め、校長の学校経営力の向上に資する研修の充実を図るとともに、人的措置を含めた教育諸条件の改善・充実に向けて積極的提言し、県民の信頼と負託に応えていく必要がある。

そのために、家庭や地域、関係機関との連携を図り、次の事項を重点としてその実現を期するものである。

1 特色ある学校づくりと教職員の資質・能力の向上を目指した学校経営の推進

- (1) 夢と希望をもち 共に未来を拓く いのち輝く子どもを育てる

③研修委員会

- H31年度県連小研究協議会の発表分科会担当地区は、東村山・最上・西置賜の理事が協議して決定。
- 第73回県連小研究協議会（東置賜地区担当）の分担と32年以降の分科会構成・発表分科会の分担について確認。
- 研究紀要第60集については、今年度から執筆者にも1冊送ることとした。

指導委員会として調査活動を行うことを基本とするが、東北連小山形大会の取り組みを重点とするため、来年度の調査研究は実施しない方向でいく。

③研修委員会

- ・ 第57回東北連小研究協議会山形大会に向けて、研究部の一員(分科会責任者)として業務に当たる他、各地区発表に向けた連絡調整を行う。

2 平成29年度東北連小の諸活動について

①活動方針案

- H29年度案は岩手県から作成・提案、H30年度案は山形県が作成・提案

②活動計画案

- 東北連小事務局業務及び山形大会事務局業務が組み込まれる

③事務局関係業務一覧案

協 議

1 県連小組織・運営等について

- 来年度、飛鳥小は休校。
- 平成29年度活動方針について、下の枠内のように了承された。
- 平成29年度専門委員会活動計画

①対策委員会

- ・ 主な対策活動として人事対策・行財政対策・給与対策を推進していく。
- ・ 29年度も実務は県中学校長会が中心となって対策活動を推進する。

②生徒指導委員会

- ・ 理事会からの依頼ということではなく、生徒

【東北連小山形大会第4回実行委員会】より

- 東北連小山形大会の案内状及び参加者のとりまとめ依頼を行った。
- 参加申込書に前泊の申し込み欄を設けた。なるべく同じ市町村の校長が同じ宿泊場所になるように業者に申し伝えるが、キャパシティーもあるので、すべて希望通りにならないことを了承してほしい。
- 学校数の減少や義務教育学校・小中一貫校などによって全体の参加者に変更もあり得る。
- 県連小のホームページをリニューアルし、山形大会の申し込みをWeb上から可能にした。是非、ホームページを閲覧していただきたい。

第3回理事会研修(H28.11.18)より

テーマ「人事評価制度導入への対応と課題について」
話題提供〈東置賜地区 長濱 洋美 理事〉

- 校長の役割として、次の3点を意識して制度を活用した
 - ① 人材を育成すること
 - ② 議論を通して組織の活性化を図ること
 - ③ 教育の本質を追究し続けること
- 校長として、制度の趣旨を職員に正確に伝え、組織体として機能させる努力が大切
- 時間を有効に活用しながら、公正で客観性のある評価を行った

学校経営
 (2) 教育公務員としての規範意識の高揚と教育力の向上
 (3) 次期学習指導要領を見越した教育課程の編成及び工夫

2 学校経営の充実に資する研修の推進
 (1) 第57回東北連合小学校長会研究協議会山形大会 兼 第71回山形県連合小学校長会研究協議会の実施
 (2) 県連小理事研修会の開催

3 課題解決に向けた専門委員会活動の推進
 学校経営の改善と充実を図るため、教育問題に係る研修や調査研究などの活動や収録、および教育行財政問題の検討と対策に係る行動を行い、本県小学校教育の振興に努める。
 (1) 対策活動の推進
 ① 人事対策
 多様な教育的支援を要する子ども達に対応した教育の充実のため、人的措置を含めた環境整備が図られるように努める。
 ② 行財政対策
 教育諸条件の整備に係る調査研究に努め、施設・設備、教材等の整備・充実、学校配当旅費の改善、教職員の資質向上を図るための条件整備に努める。
 ③ 給与対策
 教職員が安心して教育に専念できるようにするための給与・諸手当をはじめ、退職時および退職後の処遇、年金制度等について研究を深め、その維持・改善がはかられるように推進する。
 (2) 研修活動の推進
 第57回東北連合小学校長会研究協議会山形大会 兼 第71回山形県連合小学校長会研究協議会の開催運営に努めるとともに、東北連小、全連小の研究協議会との連携を図る。
 主管地区(山形・上山・東村山)と連携し、第57回東北連合小学校長会研究協議会山形大会の実施に向けての準備と第58回東北連合小学校長会研究協議会青森大会への引き継ぎに努める。また、学校経営に関する研究紀要の編集を行う。
 (3) 生徒指導の推進
 校長を中心とした生徒指導体制を充実させ、すべての児童が個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることができることをねらい、迅速な情報収集と情報発信を行う。
 (4) 調査研究の推進と提言内容の浸透
 学校経営に係る喫緊の課題を受けて調査し、県内小学校の現状や動向を探るとともに、課題への対処方法を打ち出し、提言として発信する。
 また、提言内容の浸透を図るとともに、調査結果を対策活動の推進に生かしていく。

4 連携・交流を図る活動の推進
 (1) 県内各地区校長会相互に、緊密な連携を図り活動を推進する。
 (2) 山形県教育委員会、市町村教育委員会はもとより、家庭および、PTA、地域、異校種間、関係団体との連携を図る。

